第11回「演習課題への取り組み(2)」

レポートを作成する

レポートとは

- 感想文は、自分の経験や自分の気持ち・感情を書き表したもの（主観的な見方）
  - 印象に残った事柄・文章とその理由を述べる
  - 「もし自分なら」「こういう状況なら」など仮定して考えてみる
- レポートは、調査や実験の結果わかった『事実』と、それに基づく自分の『意見』をまとめたもの
  - 事実：内容が本当かどうか（真か偽か）客観的に確かめられる
  - 意見：書き手の考え（判断、推測）をあらわしている（客観的な事実に基づく）

レポート作成の手順（タイトルの決定から資料の収集へ）

1. 背景の把握
   - 大まかなテーマに関する基本的な情報を集める（新聞、インターネット、事典など）
   - テーマとなっている問題や課題について、全体像や大まかな内容を理解する
2. 問題提起
   - （与えられた）大きなテーマから、具体的なテーマに絞り込む
   - 社会的な問題点や疑問点、興味・関心のあるの具体的な事柄、また明らかにしたいと思う事柄を明確にする
3. 仮説の提示・主張
   - それらの事柄への対応策・解決策に関する自分なりの考えを仮説として述べる
   - また、調査や研究の必要性やその方針を検討する
4. 主題（表題）の決定
   - 問題提起や自分の仮説（主張）をもとに、その主張や内容が伝わる、具体的なタイトルを考える
5. 資料の収集・整理
   - 問題とした事柄や自分の仮説（主張）を裏付けるような、資料を収集する
   - 専門図書や雑誌・論文など、具体的なテーマに関する文献（先行研究、参考文献）を集めて、整理する
6. レポートの構成の検討、テーマの再検討
   - 集めた資料をもとに、レポート全体の構成（アウトライン）を検討する
   - 集めた資料から、テーマをさらに絞り込んだり、考えなおしたり、再検討する

テーマを決める方策

1. 「よくわからない」ような言葉が、テーマの有力候補
   - 「興味があるだけ」ネタでは、思い込みがあったり、つまらないテーマになりがち
2. 「問い」をたてる
   - テーマの中でできるだけ焦点を絞り込み、表題だけで主張や内容が伝わる、具体的な言葉を考える
   - 「～について」は駄目（「自分の主張＝テーマへの問い」になっていない）
   - 扱う問いは適切に（壮大すぎる問題、二者択一的な問題、専門的すぎる問題は避ける）
3. テーマは絞り込んでいく
   - 基本的情報（背景、キーワード）→＜社会的な問題、自分の興味・関心＞→明らかにしたい課題（具体的テーマ）

自分の考えをまとめて相手に伝える ―論理的な文章のまとめ方―

レポートなどで、自分の考えを確実に相手に伝え、それを理解してもらうには、どうすればよいでしょうか。それには、「**問題点を共有し、自分の考え（結論）とその理由を明確にする**」ことが重要です。

「考えが伝わる文章」の構成

自分が一番伝えたいことを、相手に確実に伝える文章にするには、次の構成でまとめてみましょう。

1. 問題：ひとつの問題を示して問題意識を共有する

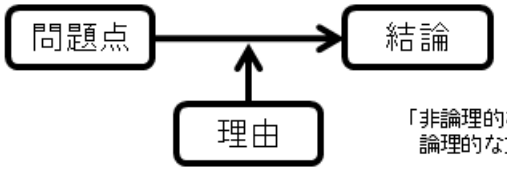
   「～すべきかどうか？」「～どうすればよいか？」「なぜ～なのか？」

2. 結論：相手を一つの結論へ導く

   「すべきである／すべきではない」「それには～がよい」「なぜなら～だからだ」

3. 理由：結論にいたる筋道を相手に理解してもらう

   「なぜなら～だからである」



「非論理的な人のための
論理的な文章の書き方入門」38ページより

なお、「読みやすい文章」だからといって、それが「考えが伝わる文章」とは限りません。（エッセイ、コラムなど）

「自分の考え」を明確にする追加要素

基本形である「問題・結論・理由」に、次のような要素を加えると、さらに説得力のある文章になります。

- 理由を支える証拠：相手に理由を納得させる根拠を示す

  「～について説明する」「～によると…」

- 反論への備え：反対意見を想定してそれに対する再反論を示す

  「～という考え方があるが…」「～という反論があるかもしれない。しかし…」

- 結論の確認：全体をまとめる

参考文献

- 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子「ゼミで学ぶスタディスキル」, 北樹出版 (2011.04)
- 学習技術研究会編著「知へのステップ 第3版」, くろしお出版 (2011.03)
- 中澤務・森貴史・本村康哲編「知のナヴィゲーター」, くろしお出版 (2007.04)
- 飯間浩明「非論理的な人のための論理的な文章の書き方入門」（ディスカバー携書 029）, ディスカバー・トゥエンティワン (2008.12).
- 石坂春秋「レポート・論文・プレゼン スキルズ」, くろしお出版 (2003.03).
- 小笠原喜博「大学生のためのレポート・論文術」（講談社現代新書 1603）, 講談社(2002.04).
- 泉忠司「90分でコツがわかる！『論文＆レポート』の書き方」, 青春出版社 (2009.07).